

## えいらい

No.7

平成23年1月発行

発行元/財団法人永頼会 松山市民病院

新年号  
2011

〒790-0067 愛媛県松山市大手町2丁目6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026

発行責任者/院長 山本祐司 編集/松山市民病院広報委員会

## 年頭挨拶

～具体的改善から協働と前進へ～

院長 山本 祐司



2011年の新春を寿ぎ、謹んでお慶び申し上げます。地域の医療機関、関係各位の皆様には、日ごろより地域連携などを通じて大変お世話になり有難うございます。

昨年、民主党政権は、医療・介護などの社会保障は雇用を促進する成長分野として強化する方針を打ち出しましたが、その他の分野では経済不況と雇用不安などが続きました。「雇用、雇用」と連呼する菅総理の姿もむなしく、秋以降には政府の内政・外交問題での迷走ぶりも露呈いたしました。今年は、社会保障の安定・強化や税制改革・財源確保など重要課題については、与野党のなじり合いは止めて、協働して政策実現できるよう前進してほしいと思います。

松山市民病院では昨年、「意識改革から具体的改善へ」を年頭に掲げ、病床再編や各種診療加算の取得、診療報酬のプラス改定、DPC(Diagnosis Procedure Combination、入院包括医療制度)導入などを経て、診療収入や収益力が回復に向かうようになりました。「具体的改善」の多くは現場からの提案であり、職員一丸となつての取り組みができたためと感じております。

今年に実現できるのが、脳卒中や大腿骨頸部骨折の地域連携パスの活用や、県指定のがん連携推進(準拠点)病院への参加であります。春には、初期研修医5名と常勤医師2名、パート医師2名が増える予定で、医師確保に関しても明るい見通しになっています。併せて懸案であります、S病棟の建替え問題や、平成25年末までの新公益法人制度改革

への対応などについても前進いたします。

松山医療圏での二次救急輪番体制も、春からこれまで通りの8グループで継続されることが決まっていますが、この病院医療の現場を支える人材の確保と育成が最重要課題の一つとなっています。そのためには、医療の質を高めながら現場が疲弊することなく、ワーク・ライフバランスのとれた働きやすい環境を整備することが必要であります。

これまで当院は週40時間労働を時間短縮でおこなってきましたが、4月から看護師の病棟勤務を四週六休のシフト制に移行することにいたします。また、土曜外来を新患・予約患者のみに調整・縮減し、外来も同様のシフト勤務制に順次もっていきたいと考えております。これまでどおり地域の医療ニーズに応えながら、各診療科の医師や現場の職員と協議し、前準備して段階的に移行するようにします。関連医療機関、開業の先生方や地域住民の皆様のご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

病院は多職種の人が協力して働く「協働」により成り立っています。現場での「協働」の創意工夫や提案を職員自身で行うことで、柔軟な就労形態を認め合い、働きやすい職場へと「前進」する力となることが期待されます。今年は職員一同、ウサギのように、ぴょんぴょんと小さく飛び跳ねながら、「協働と前進」をしていこうと思っております。

関係各位の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いし、年頭の挨拶とさせていただきます。